

# 四国・水こぼれ話

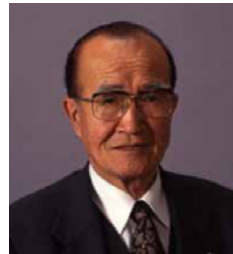
Water Information Saloon Shikoku

## 談話室 Vol. 2

### ダムと自然を生かした町づくり

香川県 塩江町長

なかい ひろし  
中井 弘



香川県最大の内場ダムがある塩江町は、昭和31年に旧上西村、旧塩江村、旧安原村の三村が合併して誕生しましたが、本年9月には約49年の歴史に幕を閉じ高松市と合併することとなりました。

昨年は度重なる台風により大被害を受け、本年は平成6年以来の空梅雨となり各地区で水不足となっております。全国に比して降雨量が非常に少ない香川県は、過去何回も干ばつに見舞われる一方、地形が急峻なため、台風等による災害も後を絶ちませんでした。そのような中、昭和13年に、待望の内場ダムの建設工事が、治水、灌漑、水道用水、洪水調節を目的に着手され、途中、戦争の激化、資材不足のため中断はしたものの、昭和28年に総貯水量797万トンのダムが水没農地250万6千㎡、水没戸数87戸の人々の協力のもと完成いたしました。

現在、満々と緑の水を湛えるダム湖畔にはキャンプ場、テニスコート、ペンション、ホテル等が整備され、紅葉の秋に湖面から打ち上げる花火は、山間にこだまし水面を美しく彩り、塩江温泉郷を訪れる人々の心を癒してくれています。

ダム下流域では、ボランティアグループの「温知会」が源氏ホタルの幼虫を養殖し、河川に放流するとともに毎年6月には「塩江ホタルまつり」を開催するなど河川環境の改善に努力し、ホタルの乱舞する河川の創出に取り組んでいます。

21世紀は環境・自然との共生の世紀といわれています。これからも、これらの資源と自然との調和を図りつつ快適な生活のできる町づくりに努めていきたいと考えています。



内場ダム湖畔



湖畔での秋の花火大会



ホタルの乱舞